しんあい

季刊

2019年（平成31年）３月20日発行　第109号　◆編集と発行　しんあい編集部

社会福祉法人
多摩同胞会
〒183-0042 東京都府中市武蔵台１-10
TEL042−367−8801

多摩同胞会のホームページでは、ブログを毎日更新しています。
http://www.tama-dhk.or.jp/
をぜひご覧下さい！

鬼は外、福は内！
春はもうすぐですね。

平成最後の節分です。
縁起がいいといわれる年男、
年女ですが、鬼になって登場
しました。　（あさひ苑）

泉苑
・特別養護老人ホーム信愛泉苑
・高齢者在宅サービスセンター
　泉苑ケアセンター
緑苑
・養護老人ホーム信愛寮
・特別養護老人ホーム信愛緑苑
あさひ苑
・府中市立特別養護老人ホームあさひ苑
・府中市立あさひ苑
　高齢者在宅サービスセンター
・府中市高齢者住宅うらら多磨
神田事業所
・特別養護老人ホームかんだ連雀
・かんだ連雀高齢者
　在宅サービスセンター
・千代田区立岩本町ほほえみプラザ
・千代田区立かがやきプラザ
　相談センター
児童福祉
・子ども家庭支援センターしらとり
・母子生活支援施設白鳥寮
・母子生活支援施設網代ホームきずな
・府中市子ども家庭支援センターたっち

◆ 社会福祉を考える４
◆ 多摩同胞会の人材育成
◆ 施設だより
「平成をふりかえって」

社会福祉を考える ～高齢者の居住問題と養護老人ホーム（4）～

副理事長　小笠原　祐次

4　高齢者の居住（住宅）福祉政策のこれからの課題

(1)　多種類・複雑な居住体系を、すっきりわかりやすい体系に

今日の高齢者向け住宅の種類は、20種類以上に分かれています（**表5**）。制度上は、老人福祉法、介護保険法、公営住宅法、高齢者居住法など、多岐に分かれ、所轄官庁も、手続きも異なるというように、実に複雑に出来上がっています。ですから、居住面積基準も、1人当たり3.3㎡から25㎡まで、大きな格差があります。利用しようと考えた時に、どこに相談に行けばいいのか、誰でも戸惑います。

これに対して、多摩同胞会が長年、交換研修などで訪問していたスウェーデンの住宅対策と比較すると（**表5**）、一目瞭然。スウェーデンでは一般住宅を除けば、ナーシングホーム、グループホーム、サービスハウスの3種で成り立っています。この3種の住宅の1人当たりの面積は、自治体によって若干の違いはあるものの、25㎡以上の個室になっています。スウェーデンでは、これで高齢者が住居で困っているという話は聞きません。

わが国でも、法制度の縦割りやちょっとの条件や要件で種類、名称を細分化するのではなく、利用しやすく、わかりやすい単純な体系に組み立て直す必要があります。

(2)　住宅確保困難者のために養護老人ホームはじめ、既存施設の活用を

現在、高齢者をはじめ、住宅確保困難者には、民間の低額宿泊施設（宿所提供施設・アパート）を活用する制度を基本に動こうとしていますが、生活の土台である住宅の提供は、とりわけ経済的にも困難な人々であるからこそ、民間の市場で提供するのではなく、公的な制度の中で、一定水準以上の住宅を提供する仕組みとすべきです。

公的制度として整備されてきた養護老人ホームなど、既存の公的施設の提供からまず始めることが大切です。養護老人ホームは、現在でも約1万人余の空き部屋があります。公的な経済支援の制度もあり、生活の世話などのサービスが十分に整っている養護老人ホームの利用から始めるのが、最も合理的です。

さらに、住宅補助金制度などを設けて、軽費老人ホーム、ケアハウスなどの既存施設や高専賃などにも入居できるようにする対策があっても良いのではないでしょうか。

(3)　養護老人ホームなどの居住条件を大幅に改善する

養護老人ホームは、低所得者の居住施設として制度化されてきた経過もあって、相部屋、1人3.3㎡などという極めて低い水準でしたが、平成18年にやっと、個室、10.65㎡に改善されました。サ高住（サービス付高齢者住宅）に比べればはるかに低い水準です。「健康にして文化的な最低限度の生活」としての生活・文化水準らしく、快適な生活が営める居住条件に、思い切って改善、改修を推し進めるべきです。

低所得層の人々だから低い水準で良いとする「劣等処遇」（貧しい人達には、懲罰的にも低い水準のサービスでよしとする差別的）の考え方から、一刻も早く脱皮すべきなのです。

(4)　居住の権利の確立

こうした制度的な改善を進めるためにも、居住（住宅）福祉についての基本的な考え方が、国民の中で合意される必要があります。居住（住宅）福祉の考え方については、107号の年表の中で示していますが、様々な視点から示され、国としても確認してきました。

昭和52（1977）年の中央社会福祉審議会の「今後の老人ホームのあり方」答申で、「養護老人ホームは、その入所要件において経済的理由を取り除くとともに、「収容の場」から「生活の場」へと高めることにより、従来からの救貧的な色彩を払拭する必要がある。そのためには養護老人ホームにおいても生活の場にふさわしいプライバシーのある生活を可能とするために、個室を与え得るような体制に移行すべきである」としていますし、昭和57（1982）年にウィーンで開催された国連の国際高齢者会議で採択された（日本も採択に賛成）『高齢者問題国際行動計画』では、「勧告34」で「施設入所が高齢者にとって必要又はやむを得ない場合には、高齢者の尊厳、信条、ニーズ、利益、プライバシーを十分尊重し、高齢者の住んでいた地域社会の通常の状況と同じ施設生活の質を保障するため、最大限の努力が払われなければならない」と定めています。

憲法25条の規定だけでなく、このような審議会、国際条約の中で提言され、承認してきた居住福祉の考え方がすでに示されているのです。国民的国際的約束なのです。こうした居住の権利の内容を再確認するところから再出発する必要があるようです。

表5　対策の変化

日本の施設、住宅の種類		スウェーデンの特別の住居及住宅の種類
介護保険施設	介護療養型医療施設	ナーシングホーム（老人ホーム）
	介護老人保健施設	
	介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	
養護老人ホーム（含む　介護内部型　介護外部利用型）		
グループホーム（認知症対応型生活共同介護） 小規模多機能型施設（居宅介護）		グループホーム
軽費老人ホーム	軽費老人ホーム　A型	サービスハウス
	軽費老人ホーム　B型	
	ケアハウス	
有料老人ホーム	有料老人ホーム　介護型	
	有料老人ホーム　住宅型	
	有料老人ホーム　健康型	
サービス付高齢者住宅（サ高住）（一部、有料老人ホームとして認定）		
生活支援住宅	シルバーハウジング	
	シルバーピア	
	グループリビング	
	生活支援ハウス	
宿所提供施設　日常生活支援住居施設　（従来、無料低額宿泊所＝宿所　提供施設とされていたものの一部が、生活保護法改正で）		
一般住宅	公営住宅・高齢者向き住宅	一般住宅
	高齢者賃貸アパート	
	高齢者分譲マンション	
	一般住宅・マンション	
	戸建住宅	

スウェーデンでは「施設」を「特別の住居」と規定

～多摩同胞会の人材育成～

多摩同胞会では各施設から研修担当者を選出し研修担当会議を開催し、研修の年度計画を企画実施しています。平成 30 年度の法人企画研修は 17 テーマ、その他各施設では運営規程に基づく必須研修やスキルアップ研修を開催し、さらに外部研修へも積極的に職員を派遣しています。研修で学び得たことを質の高い利用者サービスのためにつないで行くには、さらなるフォローアップが必要ですので次年度の研修計画への継続的な取り組みが求められます。平成 30 年度の主な研修をご報告します。

研修テーマ「抱え上げ０　他施設から学ぶ」

１．日　　時　①　11 月 24 日（土）
13：30 ～ 16：00
②　12 月　8 日（金）
13：30 ～ 16：00
２．会　　場　社会福祉法人
友愛十字会　砧ホーム
３．講 師 名　砧ホーム　鈴木健太施設長
４．参加者数　①　8 名　②　6 名
５．研修内容

砧ホームは、東京都が行なっているロボット介護機器・福祉用具活動支援モデル事業を活用し、平成 28 年～ 29 年にかけて福祉機器導入と現場職員への浸透に取り組まれておりました。鈴木施設長のご説明では、最初から上手くいったわけではなく様々な失敗や試行錯誤があったとの事です。福祉機器の理解を少しずつ浸透させ、委員会を立ち上げ、委員会のメンバーには積極的に外部研修や福祉機器に係る資格取得を推奨したことで、今では当たり前のように福祉機器の活用がなされ、委員会メンバー同士で様々な工夫やさらなる向上に取り組まれていることを感じる事ができました。我々も、目標となる環境を目の当たりにし、法人を挙げて『抱え上げ 0』を目指すべく意欲と責任を感じた良い研修でした。

研修テーマ「抱え上げない介護」と「福祉機器の活用」～現状の確認と課題の検討～

１．日　　時　7 月 20 日（金）
17：30 ～ 19：30
２．会　　場　①　緑苑　②　かんだ連雀
（スカイプ利用による同時開催）
３．講 師 名　緑苑：比留間貴（あさひ苑センター長）
青木雅子（緑苑ＰＴ）
かんだ連雀：峯俊美（かんだ連雀センター長）
寺澤恭彦（あさひ苑次長）
４．参加者数　①　20 名　②　16 名
５．研修内容

「抱え上げゼロ」の実現に向けて、各施設の抱えている福祉機器を取り巻く現状と課題を法人全体で共有することを目的とし開催されました。

高齢者施設で働く職員に事前アンケートを実施すると、「福祉機器を活用したい」という現場職員の多くの前向きな声とともに、「新しいことを導入すること」への不安の声も聞かれました。それらについて参加者同士の積極的な意見交換がなされ、実際に自分たちの感じている課題や疑問を具体的に共有しました。

新しいことを始める時は常に不安が伴うものですが、より良いサービスを求めて法人全体としてそれらに向き合い、「業務の見直し」を行いながら一歩一歩前に進んでいく、そんな挑戦する気持ちを新たに持つことができた良い研修となりました。

研修テーマ「業務効率化とサービス向上」

１．日　　時　①　平成 30 年 6 月 19 日（火）
15：30 ～ 17：30
②　平成 30 年 6 月 22 日（金）
16：30 ～ 18：30
２．会　　場　①　泉苑　②　かんだ連雀
３．講 師 名　小笠原祐次副理事長
４．参加者数　①　19 名　②　22 名
５．研修内容

業務の見直しを行っていく上で、多摩同胞会が創設以来、色々なプロジェクトを立ち上げながら問題と向き合ってきた経過を学ぶことができました。法人 50 年史で、布おむつから紙おむつへの変化など時代とともに様々なことを取り上げてきたことを再認識しました。また新しい取り組みの紹介として、職員の動きを見直し、時間帯における人の配置を分析し利用者対応の充実につなげた事例や、平成 30 年度の主軸となった「かかえあげゼロ」に向けたヒントにもつなげることができました。常に次の一手を考えていくことが、より良いサービス提供に結びつくことを実感しました。

研修テーマ「母子 基礎ケアスキル研修」

１．日　　時　①　6 月 25 日（月）　18：30 ～ 20：00
②　9 月 21 日（金）　11：00 ～ 12：30
③　10 月 22 日（月）　13：00 ～ 15：30
２．会　　場　①しらとり　②たっち　③きずな
３．講 師 名　①成瀬明子（しらとりリーダー）　②伊能春美（たっち主任）
③岩田昭子（きずな次長）
４．参加者数　①～③　各２名　のべ６名
５．研修内容

①母子生活支援
「母子生活支援施設」の機能および役割、特色、利用者の状況、支援内容
②地域の子育て支援
法人が、きずなを発祥とし、その後時代の変遷とともに高齢者福祉を担い“家族支援”の理念のもとに様々な地域子ども・子育て支援事業を行っている現状・事業の詳しい内容、また支援者としての姿勢についてなどを学びました。
③支援の方法
母子生活支援施設における具体的な支援の手順（計画・実践・評価）

いずれのテーマについても、10 年以上の実務経験者である各施設の現職のリーダー、管理職が講師を務めました。研修参加者である今年度新入職の２名からは、「支援者として、人を知るには、まず自分を知ること。そのためには、自分を振り返ることを意識していきたい」といった共通の感想がありました。

研修テーマ「高齢基本スキルアップ研修」

１．日　　時　①　6 月 26 日（火）28（木）　16：00 ～ 17：30
②　7 月 24 日（火）27（金）　16：00 ～ 17：30
③　9 月 26 日（水）28（金）　16：00 ～ 17：30
④　10 月 24 日（水）26（金）　16：00 ～ 17：30
⑤　11 月 27 日（火）29（木）　16：00 ～ 17：30
２．会　　場　高齢施設
３．講　　師　各施設介護主任等 13 名が交替で実施
４．参加者数　各回　5 ～ 6 名
５．研修内容

高齢基本スキルアップ研修は平成 22 年に検討が始まり、平成 23 年から今の形で、新入職員向けに介護の基礎スキルを学ぶために実施しています。「食事」「排泄」「入浴」「福祉用具と移動」「認知症」をテーマに年間 5 回行い、各施設の主任が協力して講師を務め、会場は高齢施設を順番に回り各施設の見学もできる良いチャンスとなっています。基礎的な介護技術を学ぶ以外に入職後同じような悩みを抱えている時期に、お互いの近況を知ることにより職員同士の横のつながりを持ち、さらに大切な「介護とは」について先輩から学ぶ良い機会となっています。

研修テーマ「大規模災害への備えと法人の役割」

１．日　　時　①　9 月 18 日（火）　15：30 ～ 17：30
②　9 月 21 日（金）　16：00 ～ 18：00
２．会　　場　①　緑苑　②　かんだ連雀
３．講 師 名　小笠原祐次副理事長
４．参加者数　①　32 名　②　26 名

５．研修内容

日本の過去の災害を振り返り、災害大国である日本が周期的に災害に見舞われどのような被害を受けてきたのか、そしてその中で施設と地域が繋がり災害を乗り越えてきた重要性と役割を学ぶ機会となりました。

突然の災害を止めることはできませんが、被害を最小限にすることは可能であり、如何に予測を立てて準備できるかが大きな要素となります。研修を通して、①地域との協力関係を継続すること、②各事業の BCP（事業継続計画）を策定すること、③防災訓練の継続的な実施により職員の防災意識を高めることで、社会福祉法人の役割を果たしていきたいと思います。

研修テーマ「 心 の ケ ア 」

１．日　　時　①　10 月 2 日（火）　15：30 ～ 17：30
②　10 月 5 日（金）　16：00 ～ 18：00
２．会　　場　①　緑苑　②　かんだ連雀
３．講 師 名　石川邦子氏
（シニア産業カウンセラー、
１級キャリアコンサルティング技能士）
４．参加者数　①　26 名　②　20 名
５．研修内容

自己理解を深めて、レジリエンス（ストレスから回復する力）を高める方法を学びました。ペアワークにより、これまでに自分が頑張ってきた経験を振り返り、自分がどんなことを大切にして仕事をしているのかの気づきの場にもなりました。感情労働といわれる介護の仕事において、心のケアが大切であることを再確認しました。最後にはアロマセラピーを体験していい香りに癒されました。

石川先生の著書

研修テーマ「事務局研修」

１．日　　時・テーマ・講 師 名
①　7 月 24 日（火）　15：30 ～ 17：00
財務（決算）　松岡一臣 監事（公認会計士）
②　11 月 27 日（火）　15：30 ～ 17：00
財務（消費税）　山口浜屋税理士法人（顧問税理士）
③　12 月 25 日（火）　16：00 ～ 17：00
情報処理　宗澤章（かんだ連雀主任）
④　1 月 29 日（火）　16：00 ～ 17：00
個人情報　佐藤泰史（あさひ苑主任）
２．会　　場　泉苑４階ホール
３．研修内容

事務職員のレベルアップのため、年間計画により研修を開催しています。（各回 15 名程度が参加）

財務関係の研修では、公認会計士や税理士の講義により専門性を高めています。「消費税」をテーマにした研修では、消費税 10％の軽減税率について、「情報処理」では WiFi の仕組みについて学びました。

各施設の事務をになう事務局メンバー

研修テーマ「情報セキュリティ」

江島先生を囲んで

１．日　　時　①　11 月 20 日（火）
15：30 ～ 17：30
②　11 月 22 日（金）
16：30 ～ 18：30
２．会　　場　①　泉苑　②　かんだ連雀
３．講 師 名　江島将和氏（エドコンサルティング株式会社）
４．参加者数　①　30 名　②　27 名
５．研修内容

今後の IC 活用による利便性に伴う情報漏洩のリスクの拡大の予防と、職員の情報セキュリテイの意識を高める事を目的とした研修が開催されました。

なぜ、セキュリテイ対策が必要なのか？という基本的な内容から、最近のセキュリテイ脅威の動向などを学び、『５分で出来る自社診断シート』を用いて普段の業務を振り返りました。私達の仕事は多くの個人情報を取り扱っており、ご利用者やご家族などの個人情報が漏洩する事があってはなりません。しかしながら一般的にも情報漏洩の約６割は人為的ミスとのこと。職員一人一人が、今一度日々の業務を振り返り、情報管理について危機感を持ち、正確な知識を身に着け、細心の注意を払う必要があると認識させられた研修でした。

研修テーマ「相談業務基本研修①②」

１．日　　時　①　7 月 17 日（火）15：30 ～ 17：30
②　10 月 24 日（火）15：30 ～ 17：30
２．会　　場　①　緑苑・かんだ連雀（スカイプ利用による同時開催）　②緑苑
３．①講師名　金井英明（かがやきプラザ相談センター業務責任者）
寺嶋恵美（たっち次長）
②講師名　長谷川俊雄 氏
（白梅学園大学子ども学部子ども学科教授）
４．参加者数　①　31 名　②　24 名
５．研修内容

法人では、１年間の準備期間を経、今年度より相談業務に特化した研修が始まりました。相談業務の向上を目指し足掛け 2 年をかけ相談業務に必要な内容を６回にわたり学ぶ予定です。

第１回目は相談業務基本研修①『相談援助の基本視点と支援方法（総論）～問題と課題』と題して法人内の職員が講師を務めました。何故相談業務に特化した研修が必要なのか、高齢者分野と児童福祉分野での「相談」の歴史的位置づけの変化や、相談に来られた方にWell-Bing をもたらす相談員になることが大切であることが熱く語られました。第２回目は、長谷川先生をお招きし、相談業務にあたる際に土台となる理解や視点・方法について講義を受けました。題名も「相談支援の基礎を再確認して、いっそう洗練させる」。大学だけでなく、現在も多くの実践をされ、「ソーシャルワーカー」としてもご活躍の先生のお話では、相談者の抱える困難を多面的・多層的に理解すること、支援する人・支援される人という関係ではない「みんなが当事者」という考えなど、文字通り土台となる大切なことを学ぶことが出来ました。熱い先生のお話はなかなか文章に表しきれず、２時間があっという間の研修でした。すでに相談業務についている参加者からは、「先生の話を聴けて良かった」との声があがっていました。

相談業務の研修は、始まったばかりです。今後も「人の理解」や「社会資源」「コミュニケーションスキル」等々のテーマで次年度にわたって継続されます！
相談力をますますアップしていきたいと思います‼

長谷川先生を囲んで

施設だより

平成をふりかえって

平成最後の発行となる109号。
31年にわたる平成を各施設が振りかえりました。
新たなる元号の時代もみなさまにとって
素晴らしい時間となりますように！

きずな

母と子のきずなを守る

平成元年の頃から、地域と施設のふれあいを大切に交流行事が続いています。当時の施設長も「お互いの交流を深め理解できたことが大きな収穫であった。」と述べていました。多くの方々の協力の基に施設の運営が成り立つことを学び始めた頃でもあります。

平成8年には、さまざまな関係で保育棟、管理棟、居住棟A、Bと建物が4つに分散されてしまいました。しかし、今は利用者の生活を守るために建物をひとつにするための工事が完了を迎えようとしています。

平成10年の児童福祉法一部改正では、名称が「母子寮」から「母子生活支援施設」に改められ施設名も「網代ホームきずな」に変わりました。平成23年には東京都から民間移譲され法人の施設としての運営がはじまりました。このような中、変わらなかったものもたくさんあります。周辺の自然、ボランティアの方々の協力、「きずなへ来て良かった」と思ってもらえるような支援を継続してきたことなどが挙げられます。

平成29年には、法人創設70周年の記念事業を開き、多くの方々に祝っていただきました。私もおかげさまで法人に勤めて30年になります。たくさん作り上げてきたお母さんと子どもたちとの思い出に感謝し、これからも変わらず温かな支援を続けていきます。

次長　岩田　昭子

子どもたちとつくったクッキーの「へいせい」

たっち

14歳になりました!!

たっちがオープンしたのは平成17年3月17日、先日14歳の誕生日を迎えました!!

1月末までの14年弱で、ひろばの利用登録をしたお子さんは9万千五百人人弱、ひろばを利用されたお子さんは延べ83万6千人を超えています。14年前と比べると、親子で過ごせる場はずいぶん増えましたが、たっちのひろばは現在も毎日約二百組のご家族のご利用があります。

開設当時利用していたお子さんは、すでに中学生・高校生になっているので、職場体験や体験ボランティアの生徒さんとして、たっちで再会することも増えてきました。

また、少し先輩のファミリー・サポート・センターは、事業開始から間もなく丸17年になります。こちらも、かつて依頼会員としてサポートを受けていた方が提供会員として登録し、先輩ママとして子育て世帯のサポートをしてくださるということが増えてきています。

ときの流れを感じるとともに、このような再会・循環があるというのは、本当に心強いことだと思います。地域の子育て支援の輪がどんどん広がるように、たっちもそのお手伝いができるように、新しい時代も職員一同取り組んでいきたいと思います。

センター長　畑山　恭子

ひろばのシンボルツリー

あさひ苑

移り変わる景色と歩む

【平成】というボードを抱えた小渕官房長官をテレビでを見たのがついこの間のようですがはや三十年を経過し、いま その幕を閉じようとしています。

府中市立あさひ苑は、平成5年（1993年）8月1日に開設し、以来25年まさに「平成」とともに歩んできました。

あさひ苑の周りは、数か所の福祉施設を除いて建物は何もなくところで、近くの野原ではたぬきを見かけ、苑庭には野川からカルガモも飛んできました。いまは、味の素スタジアム・警察大学校・東京外語大学・榊原記念病院・警視庁第七機動隊さらには東京オリンピックの会場になる武蔵野の森総合スポーツプラザ等に囲まれ、環境は一変しました。

そんな中、苑周の道沿いには　開設当初からの桜の木々が並びたち春になると　毎年毎年　同じように開花してくれます。ご利用者は、その鮮やかな色合いを目にし、花びら舞わす風を肌で感じ五感で愉しんでおられます。

元号は5月1日に改まりますが、どのような時代であれ、地域のみなさまが住み慣れた場で、安全にかつ安心に暮らし続けられるように、地域の福祉拠点として、その一端を担っていきたいと思います。

施設長　坂本　卓穂

あさひ苑から東の方向の味の素スタジアムを望む

緑苑

武蔵台から緑町へ

緑苑が府中市武蔵台から緑町に移転してきたのは平成6年のことです。当初は養護50名・特養30名合わせて80名の定員でした。

平成24年には市内で初めてのユニット型を含めた特養80名（平成26年にはユニット型特養が地域密着型特養に指定20名）とショート10名、養護50名の140名の定員となり現在に至っています。難しいとの思いもありましたが、越してきた年に近隣自治会の回覧版に「養護の一泊旅行に皆さまも一緒にご参加しませんか?」と募集したところ、嬉しいことに1名でしたがご参加していただけたのです。その方は、その後20数年にわたり緑苑の応援隊として協力してくださいました。

地域に溶け込む努力の一つとして、夏まつりを通じて施設を知っていただきたいと思い毎年地域の方に案内状をお配りしました。その結果、増設工事期間は中断しましたが、緑苑の夏まつりは今では地域の夏まつりとなり、自治会の方も含め毎年500名以上の地域の方が参加され楽しんでいます。また、10月に行うみどり展（展覧会）やいも煮、餅つきなどの行事にも多くの方が、緑苑に足を運んで下さるようになりました。

地域の方の温かい理解もあり、自治会とも防災協定を結んで、万が一の時にはお互い協力していく体制も整えることができ、相互の防災訓練に参加しています。

そして1階の地域交流スペースは毎日の昼食会などで賑わい、地域のサロンになっています。

5月に新元号となっても緑苑は歩み続けていきます。新しい時代となり、変化もあると思いますが、「ご利用者がいつまでもお元気でありますように」という気持ちは変わりません。

なお、写真は、平成23年1月5日に増設前の旧玄関先で利用者・職員で記念撮影したものです。

養護相談員　平岡　貴弘

泉苑　法人の原点にもどる

平成元年は天皇の即位の礼から始まりましたが、この時から法人と深い関わりがありました。天皇即位を祝う東京都の行事は平成2年に行われ、その席で都民の代表として直接お祝いの言葉を述べたのが法人の創設者で名誉都民の、中城イマ理事長でした。

それから30年、高齢者にも大きな変化がありました。少子高齢化が進むにつれ、介護保険制度の導入により福祉の考え方も大きく変化しました。社会福祉法人の運営も振り回され、一番大切にしている運営方針も損なってしまいそうです。

平成を振り返ると同時に、もう一度原点に戻り、ご利用者の生活を支え、更に人の命をお預かりしている重大な仕事であることを再認識したいものです。30年間には、泉苑内にも様々な災害や事故が有りましたが、その都度職員全員で協力し合い乗り越える事もできました。

元号が変わり新たな年月を数える事に成りますが、組織力を生かし、揺るがぬ社会福祉法人の施設の継続的運営を願うばかりです。

施設長　福岡　重男

平成3年に大改修を終えた泉苑玄関

連雀　かんだ連雀誕生

昭和の中間地点で生まれた私にとっては、昭和の時代をノスタルジーの彼方に押しやったのが「平成の時代」であります。

我がかんだ連雀にとっては、この千代田の土地で事業を始めた、とても重要な「今」の時代です。私は介護保険前を知っていますが、現在の多くの職員にとっては介護（福祉）の仕事＝介護保険という構図です。保険制度下で特に求められる遵法性、効率性、採算性、説明責任など多くのことを学びながら、様々な厳しい状況を乗り越えてきました。

今後はより人の生活や気持ちに寄り添ったものにしていくために、「平成後」の時代にチームワークで突入して行こうと考えています。

施設長　武田潤一郎

平成16年4月5日に開所式を行いました。

岩本町　出会いと別れ　笑顔と新たな出発

平成15年岩本町ほほえみプラザが開設され、ケアハウス入居者の方々も職員も、新たな出会いや生活に胸をドキドキさせながら新しい生活がスタートしました。

それから約15年の月日が経過し、その間たくさんの出会いと新たな出発がありました。お歳を重ね、お身体の状態も変化すると、ケアハウスでは次のステップに進まなければなりません。おわかれするのは寂しいけれど、私は新たな出発だと思ってお送りさせていただいています。

つい先日、Aさんが、別の施設へ移ったBさんへお手紙を出したところ「ありがとう！」とお礼の電話がありました。また、開設後間もなく入居されたCさんは、先日「ここを出たくないよ。色々ありがとうね」と仰って下さり、新たな生活へ向かわれました。

ケアハウスの平成は、たくさんの出会い、笑顔、そしてお互いに泣き笑いで手を振って「いってらっしゃい！」「ありがとう！」がありました。

写真はCさんが飾って下さった額縁です。これからも大切にさせていただきます。

ケアハウス相談員
藤井　貴子

しらとり　「しらとり」という場所

平成7年、「団塊の世代」「バブル期」といった世の中全般が活気にあふれていた時代から、経済状況の低迷や少子化が長く不安視される時代に移り変わりつつあったその時期に、東京都認定子ども家庭支援センター第1号施設として、「白鳥寮」は新たに「しらとり」として生まれ変わりました。

それまでの入所ご利用者のための支援に加えて、「トワイライトステイ」「ショートステイ」などの地域の方のためのサービス機能を併せ持ち、およそ24年が経過した今も、多くの方々の力に支えられて地域における子どもたちの安心できる居場所としての役割を担い続けています。また、途中から開始された「親子ひろば」が、来年には満10周年目前となり、中高校生のための学習サロン「SKY」（Shiratori Kids Yard）も気が付けばもうすでに活動開始から丸3年を超えました。

間もなく新しい元号を迎えますが、ところどころ補修の必要はあるものの震災にもびくともしなかった頑強な建物は、平成を通じて長く密かに受け継がれてきたスタッフのチャレンジ精神を包み込んで、まだまだ多くの子どもたちの成長を見守り続けてくれそうです。

施設長　片岡　高博

24年で欅の木もこんなに大きくなりました。

かがやき　世界は愛にあふれている

社会福祉事業従事者として、30年間の平成時代をふり返れば、平成12年の介護保険法施行を境に、まったく様相が変わった・・・と、ここまで書いて気づいた。

いや。

何も変わっていない。

日本では美空ひばりが亡くなり、ドイツではベルリンの壁が崩壊した平成元年。生活に困難を抱えているお年寄りは既に大勢いた。法人の先輩方は、必死になってその方々を支えていた。泉苑ケアセンターは府中市全域をカバーし、その利用延べ人数は一年間で7,485人になっていた。

そして現在、僕らはやはり必死になってお年寄りの命と生活を支えている。25年前、初めて介護の仕事につき緊張している僕に対し、励ますように笑ってくれた特養入居者のIさん。今年の夏に自宅で倒れていたところを発見され、重度の脳梗塞後遺症から復活し、笑って特養に入所したKさん。ふたりの笑顔には何の変わりもない。そして、その生活を支えている大勢の法人職員や、ご家族、関係者の気持ちも、何も変わっていない。

昔も今も、そこには愛があふれている。

かがやきプラザ相談センター
業務責任者　金井　英明

左　：特養入所当日、VサインのKさん
後方：付き添う成年後見人（司法書士）
右　：金井

事務局　いまもむかしもこれからも

1995（平成7）年の武蔵台地区の再整備により現在は会議室として使用されている部屋に本部事務室が設置されました。給与関連の業務は先行して本部集約が開始していましたが、主に法人固有の業務を担当していました。

その後、2004（平成16）年のプロジェクトⅡAにて事務の統合について検討を重ね、翌2005（平成17）年に、人事・庶務、財務・経理、介護請求、広報や情報管理等を集約する現在の事務局が誕生しました（現在の事務所はかつて診療所があった部屋です）。

働く場所は離れていても分担、協力しながらひとつの業務を進めていく事務局の結束力が実現できるようになった背景にはサイボウズや共有フォルダ等のITツールの存在があります。

平成の始まりは法人ではワープロが全盛の時代でした。そして平成が幕を閉じる今年、新たな業務システムとi-Padが導入されます。

法人の理念を守るために、変えるべきものは変えていく勇気をもって、事務局はこれまでも、そしてこれからも各事業を支える役割を果たしていきたいと思います。

管理財務担当事務長
青木志乃

整理整頓を心掛けています

iPadの練習中です

ボランティア紹介 ～泉苑～

今回ご紹介するのは、篠笛演奏のボランティア・磯之彦さんです。

磯さんとのお付き合いは3年程。篠笛の音色のように物腰柔らかな温かいお人柄で、年に3回ほど、和楽器に親しむひと時を過ごさせていただいています。

「篠笛」と聞くと、お祭りのお囃子や寄席の出囃子を思いつく方が多いことでしょう。磯さんの選曲はバラエティーに富んでおり、民謡はもちろん、童謡、唱歌、さらには昔懐かしのテレビ主題歌（月光仮面や赤胴鈴之助など）、昭和のヒット曲、ムード歌謡まで、ご利用者が慣れ親しんだ数々の曲を楽しませて下さいます。途中で篠笛の説明コーナーも挟みつつ、1時間弱の演奏会。間近で篠笛の音色に触れることのできる良い機会になっています。　これからも、末永くご縁が続くと嬉しいです。

デイサービス　近藤雅代

御寄贈・御寄付ありがとうございます（敬称を省略させていただきます）

石井宏　上野恒明　上床晃代　遠藤満　大木雅美　大沢良三　公益財団法人オリックス宮内財団　岡田敏子　株式会社協和　協和ふわりぃ基金　一般財団法人 熊崎報恩財団　坂本悌治　佐久間廣太郎　浄土宗八王子組青年会　一般財団法人 鈴木助成事業財団　永井文子　日産緑化株式会社　㈱P－INT　エンターテイメント事業部　前川浩子　三浦よし江　明治安田生命　株式会社　メリーチョコレートカンパニー　吉田ヒサ子

（2018年12月～2019年2月）

一般社団法人 東京文具工業連盟

（2018年5月）

ボランティアの御協力ありがとうございます（敬称を省略させていただきます）

青木晃子　青野まり　赤田美恵子　赤林好子　阿部才千代　荒井迪子　荒波智子　有本陽子　飯塚喜亥子　囲碁を楽しむ会　石井久子　石井宏　石坂勝世　石坂トメヨ　石澤圭子　市川アイ子　市川知子　井出睦子　井上智美　今喜多トシ江　今橋博子　上野時子　植松八千代　魚川桂子　内保三重子　内堀美喜　海野仁子　梅原薫　梅原光洋　卜部和子　上床晃代　江坂千鶴　NRS音楽隊　榎本成子　遠藤伊代　遠藤みつよ　遠藤陽子　大川久美子　大倉弘子　大島庸子　太田久美子　大坪イネ子　大野文子　大場正子　大橋啓吾　大原捷子　大屋康夫　大類浩平　岡田基子　小川健治　荻野和子　奥山亜子　奥山チヤ子　オコサの会　岡野洋子　小崎慶子　尾崎節子　尾崎紘之　尾崎靖宣　音楽園　おはなし夢くらぶ　Ohana Hula Team　小柳亜樹子　折田浩一　カーレット　海江田紀久子　鹿島キチ　鹿島千重子　紬野美千代　カットサロンアベ　加藤栄子　加藤廣治　加藤静　加藤規子　加藤芙美子　加藤洋子　金子武仁　神山しげ子　亀岡紀知信　川崎雅人　菊池和彦　菊地裕子　きずなの手・江戸川　ギター演奏による歌の会　北島美恵子　北田悦江　木谷教子　木森哲　具嶋郁子　國定毅　久保田摩耶子　久保紀子　隈元与志恵　蔵内睦子　栗原宏子　グレースと宝石　黒川澄子　黒川トヨ子　弦間まさ　COOSA　小池昌子　小石暁子　小出晨一　小出由美子　河野ひろみ　黄美華　古賀明美　小久保桂子　児島章子　小島孝子　小島ユミ子　小島百合子　小菅よし江　後藤祐輝　小林照子　小林真弓　小林道子　小林わか子　駒ヶ嶺秦秀　小牧直子　是永美代子　今野幸子　齋藤健三朗　斎藤千枝子　斉藤則子　酒井和子　坂本越子　佐久間桂子　佐藤イソ　佐藤公子　佐藤なか子　佐藤初江　佐藤秀和　さくらんぼ保育園　佐野田鶴子　佐山香織　椎名君代　塩澤佳津子　重田文子　設楽文子　篠田良栄　島津たか子　清水智子　清水文枝　清水光子　下江美鈴　下宏子　写童　進藤登美子　新村信子　杉本節子　鈴木暉子　鈴木瞳　鈴木由美　鈴木好枝　鈴木好子　すみれ会　瀬戸貞子　浅間の森ハンドベルの集い　高木令子　高倉祥子　高橋恭子　高橋チヨ子　高橋ヤヨイ　瀧澤千登勢　滝沢冷子　多喜田操子　竹内由美子　田島みよ　田中典子　谷敦子　田野倉晴美　田部美智子　多摩スマイル吹奏楽団　田村知江子　丹野由紀子　千葉よし　長明美　土屋とき枝　堤明　寺町律子　東京善意銀行友の会　遠山憲子　外崎芳恵　戸島正子　栃谷さき　中垣春代　中込八重子　長澤道子　長島広美　中田夏枝　永野洋子　中野渡とみ子　中村孝子　中村千代子　中村美佐江　中村恭俊　中山伊久子　中山寿美　那須雅美　二胡とゆかいな仲間たち　西村珠美　二宮澄子　根岸路子　野坂昭弘　橋場昭　長谷川和子　長谷川志津子　早矢仕房男　原田君枝　原田圀彦　原田康子　原俊江　樋口淳子　樋口よし子　肥後住江　久島なる子　日高千敦子　平泉順子　平岡美津子　平松ふじ子　広木きく江　深澤眞紀　深堀紀美子　福田佐代子　藤田京子　府中第二中学校合唱部　船岡栄子　舟見三佐子　プリモ・ピアット　古園絢子　ふれあいクラブ浅間　保坂良子　星野若佐　細木南美　堀江深雪　孫田一昭　政所優季　町田知行　松下朗　松田恵子　松野アイ　松実宏枝　丸田のぶ子　三坂和子　水谷百合子　三輪孝子　宮崎清子　宮本康子　明神淑恵　村井福子　村岡栄美子　明治安田生命　本野幸子　紅葉丘シニアクラブ若葉会　百瀬洋子　守屋貴美子　森脇敦子　八重の会　矢崎英子　柳澤梅子　山崎キヌ子　山田一丸　山田佳津江　山田ケイ子　山田順子　山野栄治　山本恵美子　山本峯子　山森貞枝　鑓溝千寿子　ゆうかファミリー　横尾美知子　横山真智子　吉岡秋夫　吉竹佐紀　吉田恒雄　吉田陸子　吉本栄子　米山秀子　るりまつりの会　朗読赤十字　奉仕団　脇山令子　渡辺勇　渡辺一恵　渡邊恵子　渡邊ひで子　若葉会　渡辺浩子　渡邊弘子　渡辺浩美　渡邊房子　渡辺守

（2018年12月～2019年2月）

編集後記

～平成を振り返って～

私の全てが詰まった平成。新たな元号と共に人・物・事との新たな出会いにも期待し、勇猛精進していきます。先ずは健康第一に平成を駆け抜けたいです。（たっち　長谷川朝生）

平成に生まれ、学生時代を過ごし、就職。そのまま結婚までいきたかったなぁ…なぁんて。

新しい出会いに期待しつつ。私の青春が詰まった「平成」でした。（しらとり　吉田智咲）

30年と聞くと長いですが、実際を振り返るとあっと言う間だったなあと感じます。新たな元号になっても楽しく素敵な日々でありますように。（きずな　山田恵未）

様々な岐路で人に助けてもらい、人の出会いに恵まれた「平成」でした。（かんだ連雀　粟沢尚広）

元号が〝平成〟に変わったと思っていたら、いつの間にか30年も経っていました。まだ子供だと思っていた自分に子供が生まれ、時の流れを感じる今日この頃です。（岩本　松本幸二郎）

昭和の時代は自分のための時間であり、平成は子育てや福祉の仕事を通して、誰かと共に過ごした時間でした。新しい元号はどんな過ごし方になるのか今から楽しみです。（あさひ苑　高野幸枝）

学生生活や就職に転職、結婚など30年の中に欠かせない出来事が数多くありました。新しい時代にどんなことを経験出来るか今から楽しみです。（あさひ苑　YM）

平成で結婚し、3人の子供が生まれ、介護の世界で働き始めました。子供達も大人となり、結婚して、平成の最後に孫が生まれました。31年間は大きいですね。（泉苑　南佳代）

振り返ればあっという間の30年間でした。ギリギリ昭和生まれの私の記憶は平成のものばかりです。新しい元号になってからの記憶が楽しいものでありますように。（泉苑　開田圭一）

平成が始まったのが、私が中学一年生の時。今は息子が中学一年生。月並みですが、あっという間の30年でした。（緑苑　大日向龍）

学生から働く母親に至った平成時代でした。時代が変わっても、悔いのないように日々を過ごしていきます。（事務局　青木志乃）

昨年勤続30年の表彰をいただいた私にとって「平成」は、多摩同胞会そのものです。新たな元号のもとでは、ひとつひとつを丁寧に確実に歩みたいと思います。（編集長　上野廣美）

介護に関するご相談は
無料ダイヤルで！

●泉苑
0120－6540－24
老後支援24時間

●あさひ苑
0120－2942－24
福祉にっこり24時間

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています
VEGETABLE OIL INK